

研修報告書 No.29

所 属： 三豊総合病院

氏 名： 有田 凌

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院

特定医療法人長生会 大井田病院

1月前半の二週間を渭南病院、後半の二週間を大井田病院で研修した。

渭南病院は土佐清水地域の医療を担う病院である。この地域は医療機関が少なく、入院できる病院がなくなった場合は自動車で一時間以上かかる他の地域の病院まで移動する必要があるという。特に高齢者の多いこの地域では、自動車での長時間での移動は難しいものがある。渭南病院は医師が少数であるにも関わらず、救急搬送の受け入れ、入院加療を行っている数少ない病院であり、土佐清水になくてはならない医療施設である。もちろん渭南病院では対応できない高度の医療を必要とする患者は、救急車やドクターヘリで高次病院にすぐに搬送する環境も整っている。

渭南病院で特徴的であると感じたものは、医療機関である病院、介護施設、訪問看護が一体となり医療を提供する仕組みが整っているところである。これは医療の目指すべきところであると思うが、実際にできている地域は珍しいと思う。土佐清水は人口が少なく、またアクセスの悪い地域に高齢者が住んでいる一方で、医療提供者も少ないことから、効率的に医療や介護を提供できるよう連携する必要があったようである。訪問診療に同行した際も、かなり広い地域を自動車で移動し、外来受診の難しい方の診療を行ったが、実際に同行すると病院という場だけで医療を提供することが難しいということを実感できた。

渭南病院での二週間のうち二日間を、十和診療所という山間の診療所で見学研修した。ここはさらに人口が少なく、いわゆるへき地医療である。病院を作れるほどの人口はいないが、この診療所がなければ、近くの医療機関にはやはり自動車で一時間以上を必要とする。そのため、内服の継続や軽症の患者の診療にはなくてはならない診療所であった。これまでは診療所の必要性を軽視していたところもあったが、薬をもらうために高齢者が長時間移動することは困難であり、こういった診療所は実際に維持するのは困難であるが、できる限り長く存続してほしいと感じた。

後半の大井田病院はもう少し大きな病院で、宿毛の地域医療を担う病院である。こちらでも訪問診療や訪問看護を積極的に提供しているのが印象的であった。また、若い医師が地域医療、総合診療を学ぶとともに地域に貢献するために働いており、実際に外来でも一般内科から外傷、疼痛管理などのマイナートラブルといった幅広い範囲を診療しており、同時に入院患者の診療も行っていて、どんな病態でも対応できるようにしていた。地域医療、総合診療を学ぶためには非常に良い環境であると感じた。

二つの病院に共通していたのは訪問診療や訪問看護を積極的に行っていた点である。両病院とも地域に高齢者が非常に多く、また自動車がなければ移動が困難な家庭が多かった。これからの地域医療には、訪問診療や訪問看護、介護の環境を整える必要があると感じた。地域だけでなく、高齢者の多い日本ではますますこういった病院が増えるのだろうと思われる。

もう一つは医師や医療関係者の熱意である。医師は少数ながらも熱心に診療をしており、外来で様々な疾患や外傷を診ながら、空いた時間で訪問診療を行っていた。私が外来をさせていただいている間も熱心に指導をしていただき、非常に勉強になった。医師だけでなく看護師も熱心で、特に看護師を中心に訪問制度を維持していることが印象的であり、医師だけでは地域医療を完結するのは困難であるとも感じた。

一カ月という短い時間であったが、医学的な知識だけでなく、地域医療のシステムや病院による役割の違いも学ぶことができ、有意義な研修であった。